

間伐不実行林分の素材生産 結果について

深浦営林署	○大間越森林官	ふくししのぶ
〃	追良瀬森林官	福士忍
岩手営林署	西根森林官	くどうけいいち
		工藤圭一
		みのりかわのぶき
		御法川信樹

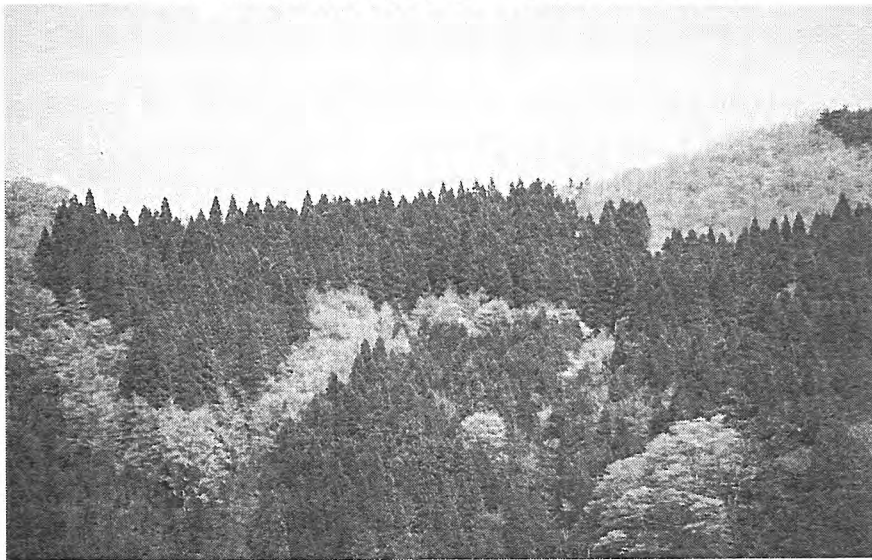
1 はじめに

深浦営林署における平成8年度素材生産事業箇所において、同じ流域で林齢、面積がほぼ同一でありながら、本数、材積で約2倍の開きがあることに着目し、その原因を調査するとともに、同箇所での素材生産から販売までをいろいろな角度から比較分析し、素材の品質、価格等にどのような影響をもたらしているか、また、この研究に基づいて今後の間伐実行にどのように反映させていくかを考察した。

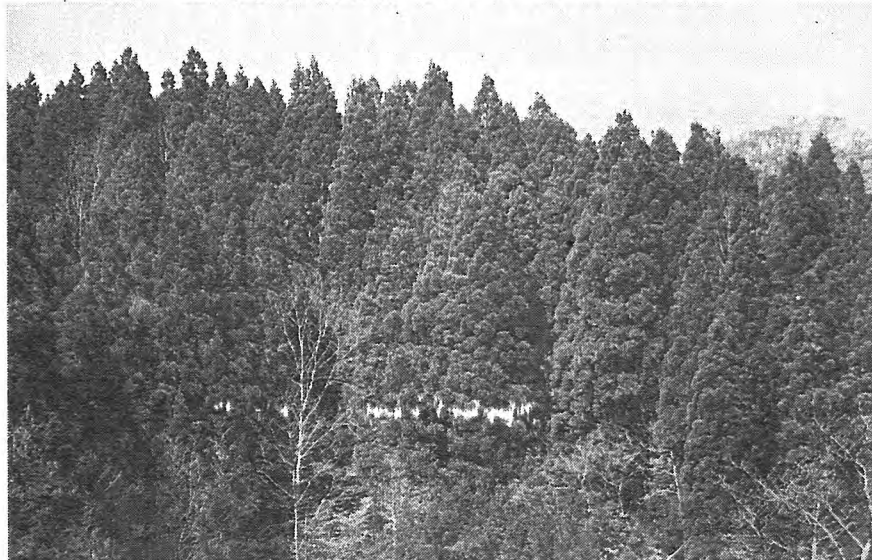
2 研究方法

(1) 伐採前の林分状況

○写-1 間伐不実行林分（57り林小班）の状況



○写-2 間伐実行林分（57わ林小班）の状況



(2) 収穫調査数量等

項 目	間伐不実行林分 (A)	間伐実行林分 (B)	A B の 比較
林 小 班	57り林小班	57わ林小班	
面 積	1.47ha	1.46ha	1 対 1
本 数	2,173本	851本	2.6対 1
幹 材 積	1,181m ³	589m ³	2.0対 1
標 準 木	24cm-19m	28cm-18m	径で4cmの差
HA当たりの本数	1,478本	583本	2.5対 1
HA当たりの材積	803m ³	403m ³	2.0対 1

(3) 生産数量等

項 目	間伐不実行林分 (A)	間伐実行林分 (B)	A B の 比較
林 小 班	57り林小班	57わ林小班	
生産予定数量	907m ³	451m ³	2 対 1
生産完了	721m ³	457m ³	1.5対 1
歩 留 り	79%	101%	
品等	込	96 (13%)	62 (14%)
	元玉	0	1
	中玉	547 (76%)	308 (67%)
	中A	78 (11%)	86 (19%)

(4) 販売結果等

項 目	間伐不実行林分 (A)	間伐実行林分 (B)	A B の 比 較
林 小 班	5 7 り林小班	5 7 わ林小班	
販 売 総 額	1 2, 7 0 7 千円	8, 5 2 1 千円	1. 5 対 1
m ³ 当たり単価	1 7, 6 4 9 円	1 8, 6 7 8 円	約千円の差
入 札 時 期	8 年 7 ~ 9 月	8 年 7 ~ 9 月	
平均応札枚数	4 枚	6 枚	1 対 1. 5

3 研究の結果

- (1) 5 7 わ林小班は、過去に数回間伐を実行し、ほぼ適正本数になっているのに対し、5 7 り林小班は、間伐売り払い契約しても伐倒不実行等により結果的には一度も間伐を実行しておらず過密林分の状態で成長した。
- (2) 平均胸高直径は、間伐実行林分が間伐不実行林分に比べて 4 cm 大きく成長した。
間伐不実行林分は本数密度が高かったことから、直径成長が抑えられていることがわかった。
- (3) 平均樹高は、間伐不実行林分が間伐実行林分に比べて 1 m 高く成長したが、あまり大きな差は見られなかった。
- (4) 本数、材積は、間伐不実行林分が間伐実行林分に比べて本数で 2. 5 倍、材積では 2 倍と大きな差となった。
- (5) トビグサレは、1 3 cm 以下の小径木では間伐不実行林分で約 3 0 % だったのに対し、間伐実行林分は半分の 1 5 % で、中径木では逆に間伐実行林分が 3 % 多かった。
- (6) 収入の面から見ると、品質に大きな差がなかったことから m³当たりの単価は千円の差に止まり、総材積が多かった間伐不実行林分の材積の多さがそのまま販売総額の差となって、間伐不実行林分の方が 4, 1 8 6 千円多かった。

4 まとめ

- (1) 今回、同一環境にある2箇所の林分調査結果は、一般にスギは過密状態になると劣勢木から枯死する自然淘汰型といわれているのに、57り林小班はカラマツ林に多くみられる一斉に細長く成長する共倒れ型となったが、そのまま共倒れすることなく成長したため、本数、材積で2倍近くの差が生じたものと思われる。
- (2) これまで、間伐木の価格低迷や搬出経費の掛かり増し等から契約者が伐倒・搬出を見合わせするなどにより間伐不実行となり、今回のような間伐不実行林分が発生したところであるが、当該両箇所の地形、気象条件等がほぼ同一であることから見れば、このような箇所は間伐を見合せしても成林する条件は整っていたものと思われる。
- (3) 今回の研究において、当初は間伐を実行しない箇所の材は品質・品等面で間伐を実行した箇所と大きな差がでて間伐を確実に実行しなければならないという結果になるものと考えて研究に取り組んだが、結果としては当初想定していたものと反対の結果となった。
- (4) 間伐を実行しないことによって不健全な林分が発生することは林業経営上望むところではなく、特に深浦営林署の人工林面積は約7,900haあり、そのほとんどが間伐を実行しなければならない林齢となっており、今後毎年相当数の間伐を実行していかなければならない実態にある。
- (5) このような中において、間伐は採算がとれないのでなるべく契約したくないといっている業者、さらには営林署としても間伐による収入に多くを望めない現状では、当該箇所のように自然枯死に委ねておいても大きな被害もなくむしろ収入面でよい結果が得られるような林分は間伐を見合わせることも視野に入れつつ、地形、気象条件、植栽密度、生産された素材の品質等を更に研究し、間伐をしないでそのままの状態にしておいても大きな問題のない林分と早急に間伐を必要とする林分の見極めをし、更に要間伐林分については、新たな調査方法、販売方法を模索しつつ、効率的な間伐を目指し署をあげて努力して参りたい。

